

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	社会福祉法人 幸喜会 多機能型事業所 ルアナ大開 児童発達支援		
○保護者評価実施期間	令和7年 12月 5日		～ 令和7年 12月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14名	(回答者数) 14名
○従業者評価実施期間	令和8年 1月 10日		～ 令和8年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月 27日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別支援計画に基づき、アセスメントツールを活用した一貫性のある療育の実施がなされている。	アセスメントツールを活用し、根拠ある支援の提供が出来ている。個別支援計画の内容に沿ったサービス提供記録が出来ている。	日々の療育内容や支援意図について概ね高い評価であるが「わからない」「どちらともいえない」との回答が一部に見られたことから、支援目的・成果・根拠を文書化していく。
2	職員間の協力体制と柔軟な対応力がある。	一部職員に業務が集中しやすい構造があるため、繁忙期は業務量に応じた役割分担の整理を行っている。	非常勤職員を含めた情報共有体制を強化する。AIを活用した議事録の簡素化と共有の迅速化を図る。
3	環境構造化への高い意識がある。	他事業所との相互見学や外部研修を通して、客観的視点から支援内容・環境整備の妥当性を確認し、質の向上を図っている。	個々の職員の力量に依存しない体制を目指し、支援手順・声かけ方法・リスク対応についてを標準化していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援の質は高いが非常時の対応について「見える化」が十分ではない。	発作時の対応方法等、個々に保護者とやり取りを行っているため、全体としての周知が十分ではない。	「わからない」との回答を解消するために、制度説明方法や説明媒体の見直しを図る。
2	丁寧な保護者とのコミュニケーションを図っているが、将来的な利用児増加に備えた取り組みはなされていない。	開所2年目となり、これまでは支援の質を高める段階だったが、今後は質を証明し広げる段階へきている。	受け入れる年齢層の偏りをなくし、中長期的な視点で戦略的な増加施策に結び付けていく。
3	客観的検証の機会がまだ限定的であること。	外部スーパーバイズの仕組みが限定的である。	必要に応じて外部から講師を招く機会を常設していく。